
勇者と七つの紋章

S

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

勇者と七つの紋章

【Nコード】

N2737D

【作者名】

S

【あらすじ】

少年ロイは叔父の倉庫で一冊の本を見つける。その本により、彼の運命は大きく変化する。紋章争奪戦が今ここに始まる。

勇者と七つの紋章

昔、この世界には七つの紋章があると言われていた。

世界中に散った、七つの紋章を集めし者は、絶大の力と永遠の命を授けられた。

この物語は、そんな七つの紋章と一人の少年、ロイの物語である。

ロイは、叔父の倉庫で探し物をしていた。

「あれ？ないな」

その時、ロイの目に赤い一冊の本が目に入った。

「なんだこれ？」

ロイはその本を持ち出した。

そして、誰にもばれないよう、森の中に入って行った。

ロイはその本を読むことにした。

「なんだこの字、全然読めないよ」

その本、見たこともないような字で書かれていた。

ロイが本を読んでいると、一つの紙切れが本に挟まれていた。

「これは――！」

その紙切れには地図がかいてあった。

しかし、それはどこにもない地形の地図だった。

ロイは門限が迫っていたので、家に帰った。

ロイはこの本を誰にも取られないよう、自分のベッドの下に隠した。

次の日、ロイは本がちゃんとあるかベッドの下を覗いた。

「あれ？」

ベッドの下に本は無かった。

「どこいったんだろう？」

何かの気配を感じて、ロイは窓から裏庭を見た。

「あつ、あつた、でも何でここに？」

ロイは、お母さんに聞いてみた。

「お母さん、この赤い本、僕のベッドから持ち出した？」

ロイのお母さんは、不思議そうに答えた。

「何言ってるのロイ、本なんか無いじゃない、熱でもあるんじゃない」

ロイは驚いた。

その夜、ロイは本がどこにも行かないようにしっかりと抱えて寝ていた。

すると、突然、本が黄金に輝き始めた。

「なっ、なんだ!!」

ロイは、急な出来事に目が覚めた。

「こっちにおいで、ロイ」

ロイは不思議な声を耳にした。

「さあ、その本を持ってこっちに」

声は裏庭の森の方向から聞こえてきた。

ロイは、本を持って森の奥に向かって駆け出した。

「これはいったい？」

そこには、森をよく知るロイでも知らない洞窟があった。

「こっちに」

声は洞窟の中から聞こえてきた。

ロイは、何かに取りつかれたように洞窟に入って行った。

まっすぐと続く果てしない洞窟を歩いていると出口の光が見えてきた。

「出口だ」

ロイは出口に向かって走り始めた。

壮大な運命を知らずに…。

勇者と七つの紋章 第2話

ロイは、出口から出ると、不思議な光景を目にする。

「なんだこれは――！」

そこには、見たこともない世界が広がっていた。

「うわー、すっげー、こんなの、初めて見た」

さらにすごい物が、ロイの目に飛び込んできた。

それは、天空に伸び続けている塔だった。

ロイは、今が夜ということも忘れ、塔に向かって歩き始めた。

すると、一人の人間が現れた。

「おまえ、エンデバーの者か？」

「エンデバー？」

「まあいい、その見た目ダークネスではないことは確かだ、今すぐ死んでもらおう」

ロイは、その人間からの殺気を感じてだんだんに怖くなってきて、その場から逃げだした。

「待て」

その人間も追ってきた。

洞窟だ、洞窟まで逃げっ切ったらいい、そんな考えを持ちながらロイは逃げた。

しかし、洞窟はなかった。

「なんで、何でないんだよ」

ロイは、激しく壁を叩いた。

「やっと、追い詰めたぞ」

「いや、殺さないで」

その人間は、剣を振りかざした、その時

「光の閃光、ホーリーアロウ」

ロイは、目を開けた。

そこには、矢が刺さった、あの人間がいた。

「エ、エンデバーか、これで仕留めたと思うなよ」

その人間は、暗黒の夜空に飛び立っていった。

「大丈夫か」

ロイに、綺麗な女性が話しかけてきた。

「大丈夫」

ロイは、あることに気がついた。

「本、本がない」

「本？」

「そうだよ、赤い本だよ」

「まあいい、話は本部で聞こう」

その言うと、綺麗な女性はドラゴンを呼び出した。

「これは？」

ロイが聞くと

「この子は、シャオルーン、さあ乗って」

ロイはシャオルーンに乗った。

そして本部に向かう途中、ロイは

「あなたの名前は？」

「私は、レイラ、あなたは？」

「僕はロイ、後、ひとつ聞いてもいいかな？」

「何？」

「エンデバーって？」

「そのことも、本部で聞くといいは」

「うん、わかった」

そして本部に着くと、一人の年老いた人が迎えてくれた

ロイは、その人に連れられて、大広間に向かった

そこでロイは恐ろしいことを聞いたのであった

恐ろしいことはいったい

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2737d/>

勇者と七つの紋章

2011年1月7日02時14分発行